魚類

Barred mudskipper / *Periophthalmus argentilineatus* / Minami tobihaze / ミナミトビハゼ

英名の mudskipper の通り、マングローブ林の砂泥地に生息する魚で、カニやミミズなどの小動物を捕食する。深い水深を避け、マングローブの低木やコンクリートの護岸に登ったりする。貯水できるエラがあり、皮膚呼吸もできる。メスの方が大きく、体長は 10cm にもなり、オスは平均 5cm ほどである。ミナミトビハゼの眼はカエルのように突き出ているが、怖がらせると引っ込める。様々な動作ができ、その中でも胸ビレを使って漕ぐような動きで、這って移動することもできる。また、尾をバネのように畳んで広げることによって、1m の高さまで跳ねることができる。

Ryukyu ayu fish / *Plecoglossus altivelis ryukyuensis* / Ryukyu ayu / リュウキュウアユ

リュウキュウアユは奄美大島の固有種で、内地でよくみられる通常のアユより若干小型の亜種である。1978 年までは沖縄の海にも生息していたが、その後沖縄では絶滅した。現在は奄美大島の限定された川のみに生息している。リュウキュウアユは最大 20cm にもなり、銀色の体に所々別の色も見られる。冬には河口近辺で卵から孵化し、海へ渡り、稚魚になるまで成長する。4 月から 5 月にかけて川を上り、12 月から 2 月の間滞在し、卵を産むため下流後、その生涯を終える。日本ではアユは食用魚として好まれているが、亜種のリュウキュウアユは絶滅危惧種とみなされ、生存のため保護が必要である。